

2018年度9月卒業式 式辞

中京大学長 安村 仁志

本日ここに卒業される皆さん、おめでとうございます。ご父兄の方々にもお祝い申し上げます。九月は、世界の多くの国では、新学年が始まる月、新しいことが始まる時です。胸を張って卒業してください。

本学の学歌の三番にはこうあります。「白梅香る学風に ああ研鑽の師と弟が ひとしく望む 渺瀰(びょうび)たる 四海の幸福(さち)と同胞(はらから)の 文化を高めんわが行手 暴風雨(あらし)を越えて進まん 見よや中京中京の 歴史燦(さん)たる旗かざし」。皆さんの前途には渺瀰たる世界が広がっています。「渺瀰たる」とは、水が限りなく広がっているさまです。満々と広がる海は、世界の隅々につながる無限の可能性を秘めています。しかし、時には大波をもって先を阻もうとします。まさに、人生を象徴している感があります。皆さんの門出にあたり、これからの人生を力強く生きて頂くために、イギリスの詩人ワーズワースのことばを贈り、わたくしの思いを伝えたいと思います。

Life is divided into three terms ——

that which was, which is, and which will be.

Let us learn from the past to profit by the present,

and from the present to live better in the future.

William Wordsworth

過ぎし時 いま

人生は三つの期間に分かれます。—— 過去、現在、そして未来に分けられる。現在を活かすために過去から学び、この先をより良く生きるために現在から学ぼう、という詩であります。

皆さん、卒業という「いま」に立って、自身にとっての中京大学で「過ごした時」を振り返ってみてください。

何を学び、何を身につけられたか思い巡らしてください。すぐには自分ではなかなか実感できないかもしれませんが、確実に専門知識を獲得するとともに、教養をつみ中京大学の息吹の中で、社会・世界・人間を見る眼を身に着けることができている筈です。学んだことは、嘘はつきません。自信を持ってください。また、多くの出会いを得たとも思います。それを大事にしてください。

卒業後は本学での学びは、ある意味で「過ぎし時」に位置づけられますが、先のワーズワースのことばにあるように、これからの長い人生を活かす糧になります。それが自分のためだけでなく、共に生きる人たち、そしてこれから生まれてくる人たちと社会、世界をより良くすることにつながる力となるようにしていただきたいと切に願います。一人ひとりが、それぞれの生きる場で本学の卒業生として、持てる力を活かし、人として真摯に、精一杯生きていくことだと思います。

最後に、本学が大事にしていることを確かめてみたいと思います。建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」の四大綱は「ルールを守る」、「ベストを尽くす」、「チームワークを作る」そして「相手に敬意を持つ」です。この四つは洋の東西を問わず、また時代を超えて、あらゆる分野、あらゆる場面でも通用する大切な精神です。皆さん、どうかこの本学の教育の根幹を誇りにしてください。そして、大切に生きることにより、世界が一步でも良くなるように活かしていってください。

皆さんの旅立ちと前途が祝されますよう、心からエールを贈ります。